

平成29年度第1回和田区地域協議会 次 第

日時：平成29年4月20日（木）午後6時30分～
会場：ラーバンセンター 第4研修室

1 開 会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 平成28年度地域活動支援事業の完了について (10分)

4 議題

(1) 和田区の地域課題について (75分)

5 事務連絡

6 閉 会

平成28年度地域活動支援事業実績報告【和田区】

No.	提案団体名	事業名
1	和田地区町内会長会	和田地区防犯パトロール安全安心確保事業
2	大和二丁目・ 上越妙高駅と共に歩む会	上越妙高駅及び駅周辺に賑わいを創り出す事業
3	脇野田ゆかりの会	「行ってみ！来てみ！ココが地域の玄関口」 上越妙高駅おもてなしプロジェクト事業
4	J-Mechoes (ジェイエムエコース)	音楽文化による 地元ランドマークの賑わい創出事業

平成 28 年度 第 6 ～ 8 回地域協議会 グループ討議概要

グループ・テーマ	第 6 回	第 7 回	第 8 回
A グループ ◎雪	<ul style="list-style-type: none"> ○雪と遊ぶ、困る雪を利用して楽しむ。 ○上越妙高駅周辺で雪に関わるイベント（かまくら・灯ろう作り、除雪車の展示など）をしたらどうか。 ○雪と遊ぶイベントは、子どもや親、地域との交流、転入者との交流ができる。上越妙高駅乗降客からも寄ってもらいたい。 ○イベント開催には、地域活動支援事業を活用。 ○雪室に関し、安塚の雪エネルギー専門家から話を聞く勉強会を。 ○雪室を利用している八海山酒造や岩の原ワインの見学を。 ○雪について勉強し、子どもたち親たちと共に進められるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先進地視察や識者による勉強会を通し、知識を深め、それから具体策を検討していきたい。 ○その後、各方面の組織へ提案していく。その際も、地域協議会も一緒になり、関連したいくつかの組織に集まってもらい、意見交換をして考えていく。 ○受け皿組織には、13区の住民組織のように活発に活動できる組織を想定、地域協議会から働きかけをするなど、組織づくりにも協力したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域協議会として、和田地区と一緒に盛り上げていけるイベントをするために、どのような組織にお願いしたらよいか。 ○例えば、大和倶楽部や和田地区商工会にイベント案を提案し、話し合いができる場を作っていく。 ○まちづくり市民大学への参加、イベント視察や雪室見学、雪まつりがある地域の地域協議会との交流などを実施する。 ○イベント時には、和田地区の住民に地域協議会の考えをPRし多くの参加を得る。
B グループ ◎和田区の文化と歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○和田区の歴史、文化の調査を。 ○調査対象は、文化財の抽出、寺社、史跡、伝説、民話。 ○今、調査しておかないと、今後、和田区に伝承されていかない。 ○任期中に、地域活動支援事業を活用した取組へとつなげる。 ○調査を通じ、町内会同士の交流、和田区の交流や活性化、リーダー育成へつなげる。 ○和田区の区域（エリア）を、子どもたちに認識させることができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○和田区の歴史、文化を調査するグループへ赴き、話を聞く。 ○そのグループでは古文書を読み解いているが、専門家をお願いする部分の費用を地域活動支援事業で補助する形で、手伝うことができないか。 ○この作業を煮詰めれば、最後は和田村史の改訂版のようなものを作ることができるのではないか。これを各町内や小学校へ配布できればよい。この事業を地域活動支援事業で支援できればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○和田の歴史を作る会が、和田の歴史を未来や後世へ伝えていく目的で活動中で、委員からも2名が参加。和田の歴史書を作り直したい。 ○財源を地域活動支援事業に求め、3～4年かけて歴史書を完成させる。地域協議会が、歴史を作る会に提案段階から関わっていく。
C グループ ◎懇談会 ◎リーダー育成 ◎歴史 ◎組織	<p>【懇談会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域協議会を理解してもらうための懇談会を。 ○これまでの懇談会より少し幅を広げる、中身の濃い話し合いをする。 ○町内会長会と懇談する機会を持つ。 ○今後、中身を詰め、懇談の場を。 <p>【リーダー育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消防団の成り手が若い人にいないなかで、リーダー育成は難しい。 ○若い人が出てくる機会を設け、一緒に話し合う中でリーダー育成を。 ○子どもたちと一緒に参加する会合により、若い人たちの参加を。 ○リーダー世代が、子どもたちに町内へ出ていくように教育していない。 ○若い人たちをリーダーにさせる、町内へ参加させるための意識付けを。 <p>【歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和田区の歴史を知り、覚えてもらう取組を考えていかないと、和田区の歴史や史跡が埋もれてしまう。 ○町内会長会が作る歴史の本を利用し、若い人につなげては。 	<p>【懇談会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織ごとに懇談会を開くことを考えたが、役員が重複していて難しい。 ○説明会のようなところに個々に集まる人を中心に、話し合いをしたらどうか。 <p>【リーダー育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手っ取り早く、若い人たちを中心にリーダー育成をすすめてはどうか。 ○保護者が子どもと一緒に参加できるテーマを考えていけばよいのでは。 ○身近な町内の仲間を集め、自らリーダーになって組織を立ち上げ、活性化へ結び付けてはどうか。 ○町内会が中心になり、その行事に子どもと保護者が一緒に出られるものを考え、参加させるようにしてリーダー育成に結び付けるのが一番良い。 <p>【歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和田史を中心に、和田全体の歴史の取組にできるだけ協力したい。 	<p>【組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和田地区にどのような組織があるかを把握し、それらの組織がまとまって話し合う場を作り、組織化していくことが必要。 ○和田地区振興協議会に入っていない組織から参加してもらい、意見交換をしていけば、横の連携が取れ、またリーダー育成につながる。 ○福祉分野、文化的分野、体育分野などいろいろな分野の団体を、和田地区振興協議会に集約していけば、振興協議会により和田地区の振興や発展につなげていける。

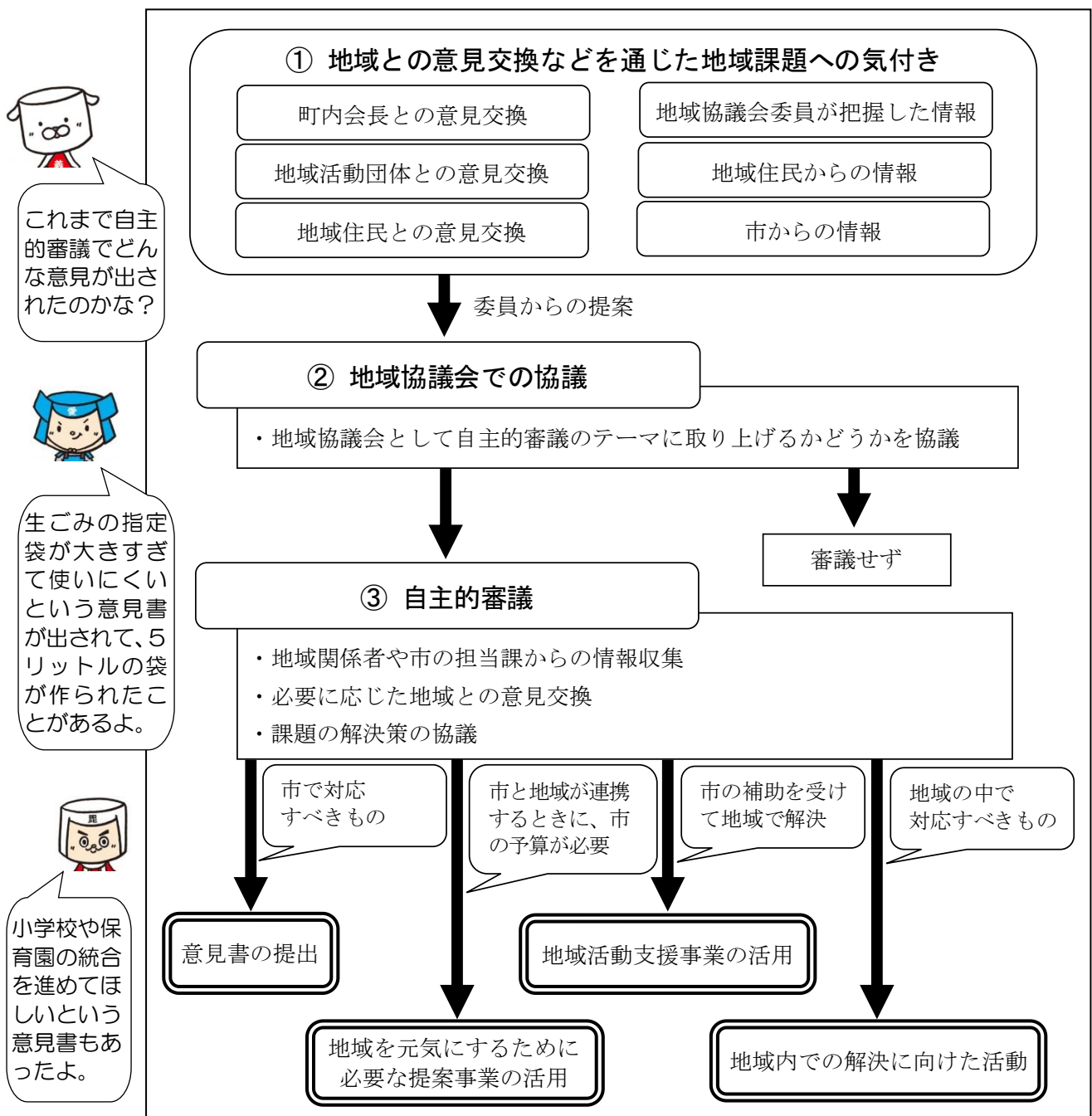
自主的審議

○自主的審議とは

地域協議会は、自主的な判断で地域自治区の区域における課題等について審議することができます。自主的審議事項として話し合った結果については、市長に意見書を提出し、市政での実現を求めていくことができます。

ただし、地域協議会は、地域住民の意見を市政に反映するための仕組みであることから、地域自治区に住む住民としての観点からの議論となり、市長に提出される意見書についても、当該区との関わりを基にした内容でなければなりません。

図6：自主的審議の流れ



様式（委員用）

平成〇〇年〇月〇日

〇〇区地域協議会自主的審議に係る提案書

〇〇区地域協議会

会 長 〇〇 〇〇様

提案者名 〇〇 〇〇

下記事項について、上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の規定に基づき、審議するよう提案します。

記

審議する事項	
内 容 ※下記を参考に可能な範囲でご記入ください。 ・提案理由 ・課題の背景 ・課題の現状 ・今後の見通し ・地域、住民への影響 ・課題が生じている場所 ・期待する効果 等	

※本提案書は、審議の開始を希望する地域協議会開催予定日の14日前までにまちづくりセンターに提出してください。なお、緊急を要する事項の場合は、センターにご相談ください。

【提案～審議決定まで】

